# Ⅷ　麦をめぐる情勢について

ホクレン農業協同組合連合会

## 1．平成28年産民間流通麦について

### （1）生産概要

28年産作付面積は、小麦122,900ha、大麦1,690ha、収穫量は小麦513,700トン、大麦6,680トンとなり、27年産と比較して小麦217,300トン減少、大麦170トン増加となりました。

| 麦種 | 28年産 | | 27年産 | |
|---|---|---|---|---|
| | 作付面積(ha) | 収穫量（t） | 作付面積(ha) | 収穫量（t） |
| 小麦 | 122,900 | 513,700 | 122,600 | 731,000 |
| 二条大麦 | 1,690 | 6,680 | 1,640 | 6,510 |

（資料：農林水産省　作物統計）

### （2）入庫状況

28年産民間流通麦の入庫数量につきまして、秋播き小麦は、播種期の天候不順により、当初作付予定面積を下回る実作付けとなったことに加え、開花・受粉期の低温および降雨や、一部地域における収穫期の降雨の影響により、販売予定数量を下回る92.1%の入庫となりました。

春播き小麦についても、当初作付予定面積を下回る実作付けとなったことから、販売予定数量を下回る97.6%の入庫となっております。

【ホクレン扱い分】

| 銘柄 | 当初契約数量（t） | | | 共計入庫数量(t) | 差引（t） | 比率 | 1等比率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入札 | 相対 | 計（A） | (B) | B－A | B／A | |
| きたほなみ | 122,440 | 291,009 | 413,449 | 385,945 | －27,504 | 93.3% | 73.6% |
| きたもえ | | 11 | 11 | 10 | －2 | 86.4% | 0.0% |
| キタノカオリ | 2,430 | 5,682 | 8,112 | 8,316 | 204 | 102.5% | 63.0% |
| ゆめちから | 12,630 | 30,121 | 42,751 | 34,037 | －8,714 | 79.6% | 70.5% |
| つるきち | | 1,450 | 1,450 | 542 | －908 | 37.4% | 17.8% |
| 秋播き小麦計 | 137,500 | 328,273 | 465,773 | 428,849 | －36,924 | 92.1% | 73.1% |
| ハルユタカ | | 2,003 | 2,003 | 2,322 | 319 | 115.9% | 50.5% |
| 春よ恋 | 11,130 | 25,978 | 37,108 | 36,584 | －524 | 98.6% | 94.0% |
| はるきらり | 1,370 | 3,212 | 4,582 | 3,754 | －828 | 81.9% | 97.0% |
| 春播き小麦　計 | 12,500 | 31,193 | 43,693 | 42,660 | －1,033 | 97.6% | 91.9% |
| 小麦計 | 150,000 | 359,466 | 509,466 | 471,509 | －37,957 | 92.5% | 74.8% |
| 大麦 | | 204 | 204 | 676 | 472 | 331.2% | 9.9% |

### （3）品 質 状 況

秋播き小麦については、開花・受粉期の低温および降雨により、タンパク値が高い傾向にあります。また、収穫期の降雨により、一部銘柄のF.N.が低くなっております。

【小麦の４項目品質状況（加重平均値）：ホクレン扱い分】

| 銘　　柄 | 容積重（g/ℓ） | | F.N.(sec) | | たんぱく値(%) | | 灰分（%） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 28年産 | 27年産 | 28年産 | 27年産 | 28年産 | 27年産 | 28年産 | 27年産 |
| きたほなみ | 851 | 865 | 414 | 418 | 11.8 | 11.1 | 1.44 | 1.31 |
| きたもえ | 833 | 845 | 387 | 396 | 12.5 | 10.4 | 1.45 | 1.48 |
| キタノカオリ | 852 | 870 | 313 | 425 | 12.7 | 12.1 | 1.63 | 1.54 |
| ゆめちから | 834 | 851 | 427 | 454 | 14.1 | 13.5 | 1.65 | 1.57 |
| つるきち | 851 | 859 | 424 | 426 | 12.4 | 12.4 | 1.79 | 1.68 |
| ハルユタカ | 832 | 849 | 287 | 387 | 13.0 | 12.4 | 1.68 | 1.65 |
| 春よ恋 | 848 | 854 | 425 | 409 | 12.1 | 13.1 | 1.64 | 1.67 |
| はるきらり | 858 | 870 | 394 | 392 | 12.1 | 12.6 | 1.63 | 1.60 |

【主要銘柄のランク別比率：ホクレン扱い分】

| 銘　　柄 | A | B | C | D | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| きたほなみ | 277,504 | 36,600 | 71,841 | 0 | 385,945 |
| | 71.9% | 9.5% | 18.6% | 0.0% | − |
| ゆめちから | 28,270 | 3,110 | 2,185 | 472 | 34,037 |
| | 83.1% | 9.1% | 6.4% | 1.4% | − |
| 春よ恋 | 36,567 | 11 | 6 | 0 | 36,584 |
| | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | − |

### （4）販 売 状 況

28年産民間流通麦の受渡につきまして、27年産麦の在庫が潤沢なことに加え、28年産麦の品質不安による使用比率の低下により、27年産を下回って推移しております。

一方で、今後の受渡については、27年産在庫の消化が徐々に進んでいることを受け、緩やかに回復する見込みとなっております。

【民間流通麦の販売状況：28年12月末】：系統扱い分

| | | 当初契約数量(t) ① | 入庫数量（t） ② | 比　率 ②／① | 12月末受渡数量(t) ③ | 進捗状況 ③／② |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全国 | 28年産 | 785,181 | 707,532 | 90.1% | 128,355 | 18.1% |
| | 27年産 | 809,039 | 907,762 | 112.2% | 190,896 | 21.0% |
| | 差引(28－27) | ▲ 23,858 | ▲ 200,230 | — | ▲ 62,542 | — |
| 北海道 | 28年産 | 509,464 | 471,509 | 92.5% | 89,801 | 19.0% |
| | 27年産 | 562,859 | 661,582 | 117.5% | 153,012 | 23.1% |
| | 差引(28－27) | ▲ 53,395 | ▲ 190,073 | — | ▲ 63,211 | — |

### （5）価格の事後調整【小麦のみ】

28年産民間流通麦の価格の事後調整後の価格については以下のとおりとなっております。

【平成28年産民間流通小麦の流通期別価格】

| 銘　　柄 | 入札形成価格<br>① | 平成28年８月～<br>平成28年９月流通分<br>変動率<br>①×87.6% | 平成28年10月～<br>平成29年３月流通分<br>変動率<br>①×80.7% |
|---|---|---|---|
| きたほなみ | 51,635 | 45,232 | 41,669 |
| きたもえ | 45,615 | 39,959 | 36,811 |
| キタノカオリ | 48,438 | 42,432 | 39,089 |
| ゆめちから | 48,197 | 42,221 | 38,895 |
| つるきち | 48,197 | 42,221 | 38,895 |
| ハルユタカ | 75,000 | 65,700 | 60,525 |
| 春よ恋 | 52,815 | 46,266 | 42,622 |
| はるきらり | 46,377 | 40,626 | 37,426 |

## 2．平成29年産民間流通麦について

### （1）需 給 状 況

#### ①　全　国（小麦）：全農＋全集

平成29年産の民間流通麦については、平成28年産と比較して販売予定数量が約25,800トン増加したものの、購入希望数量は約40,500トン増加したため、需給の逆ミスマッチは28年産より拡大し、約29,100トン発生しました。

【民間流通小麦の販売予定数量および購入希望数量】

| 区分＼項目 | 販売予定数量（t） | | | 購入希望数量（t） | | | 販売と購入の差（t） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 29年産 | 28年産 | 29－28 | 29年産 | 28年産 | 29－28 | 29年産 | 28年産 | 29－28 |
| 全　　国 | 845,673 | 819,852 | 25,821 | 874,823 | 834,325 | 40,498 | ▲29,150 | ▲14,473 | ▲14,677 |
| 北　海　道 | 568,674 | 534,711 | 33,963 | 573,470 | 539,008 | 34,462 | ▲ 4,796 | ▲ 4,297 | ▲ 499 |

#### ②　北海道（小麦及び大麦）：ホクレン＋北集

29年産の日本めん用小麦につきましては、販売予定数量約449,800トンに対して、購入希望数量が約454,200トンとなり、需給の逆ミスマッチが約4,400トン発生する状況となりました。

また、パン・中華めん用小麦につきましては、春よ恋やはるきらりにおいて、需給のミスマッチが確認されているものの、ゆめちからについて、需給の逆ミスマッチが約7,700トン発生しており、パン・中華めん用小麦全体では約400トンの需給の逆ミスマッチが確認されました。

【銘柄別販売予定数量および購入希望数量】

| 銘　　柄 | 販売予定数量(t)<br>(A) | 購入希望数量(t)<br>(B) | 差　引 (t)<br>A−B |
|---|---|---|---|
| きたほなみ | 449,812 | 454,229 | ▲ 4,417 |
| 日本めん用計 | 449,812 | 454,229 | ▲ 4,417 |
| キタノカオリ | 9,412 | 6,090 | 3,322 |
| ゆめちから | 57,805 | 65,460 | ▲ 7,655 |
| つるきち | 1,330 | 1,300 | 30 |
| ハルユタカ | 2,526 | 2,901 | ▲ 375 |
| 春よ恋 | 42,789 | 41,190 | 1,599 |
| はるきらり | 5,000 | 2,300 | 2,700 |
| パン・中華めん用計 | 118,862 | 119,241 | ▲ 379 |
| 小麦計 | 568,674 | 573,470 | ▲ 4,796 |

## （2）入札及び価格状況

### ①　全　国

小麦は価格の事後調整の仕組みにより、28年産の入札にて形成された価格に入札実施時点の変動率（平成28年９月時点の変動率87.6%）を乗じた価格を基準価格として、値幅制限±10%にて入札を実施した結果、基準価格対比109.1%となりました。

また、大粒大麦については基準価格対比105.7%となりました。

【入札結果（全農＋全集）】

| 麦　種 | 上場数量<br>(t) | 落札数量<br>(t) | 落　札　残<br>(t) | 基準価格<br>(A) | 指標価格<br>(B) | 基準価格対比<br>B／A |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 小　麦 | 221,380 | 214,060 | 7,320 | 43,752 | 47,750 | 109.1% |
| 二条大麦 | 7,620 | 6,700 | 920 | 44,188 | 46,706 | 105.7% |

### ②　北海道（ホクレン＋北集）

「きたほなみ」をはじめとした５銘柄166,000トンを上場した結果、国産小麦の需要の高まりから、「きたほなみ」については僅かに落札残が発生したものの、基準価格を大きく上回る価格にて落札されました。パン・中華めん用小麦については、上限価格にて全量落札され、特に「ゆめちから」と「春よ恋」は、高い申込倍率となりました。

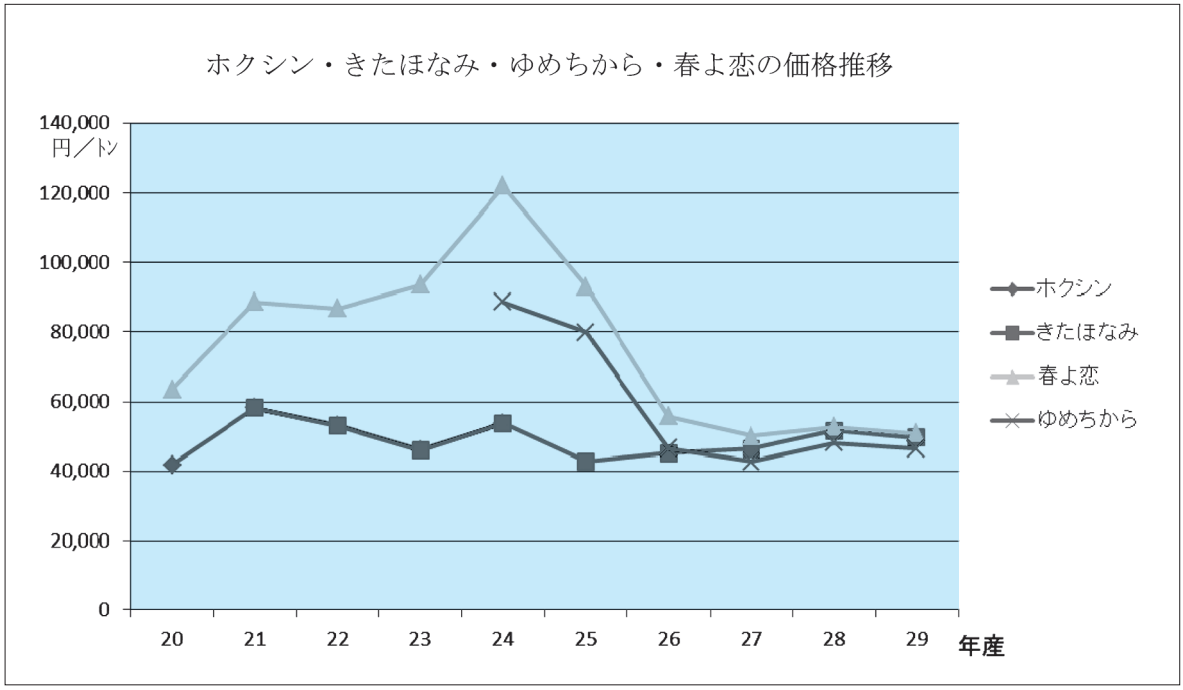
【銘柄別入札結果：ホクレン＋北集】

| 銘　　柄 | 上場数量<br>(t) | 落札数量<br>(t) | 落 札 残<br>(t) | 申込倍率 | 基準価格<br>(A) | 指標価格<br>(B) | 基準価格対比<br>B／A |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| きたほなみ | 131,530 | 130,880 | 650 | 1.1 | 45,232 | 49,751 | 110.0% |
| キタノカオリ | 2,820 | 2,820 | 0 | 1.6 | 42,432 | 46,675 | 110.0% |
| ゆめちから | 17,350 | 17,350 | 0 | 3.4 | 42,221 | 46,443 | 110.0% |
| 春よ恋 | 12,840 | 12,840 | 0 | 3.1 | 46,266 | 50,892 | 110.0% |
| はるきらり | 1,460 | 1,460 | 0 | 1.6 | 40,626 | 44,688 | 110.0% |
| 小麦計 | 166,000 | 165,350 | 650 | 1.5 | − | − | − |

【民間流通麦の銘柄別価格推移】

| 銘　柄 | 年　産 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 20年産 | 21年産 | 22年産 | 23年産 | 24年産 | 25年産 | 26年産 | 27年産 | 28年産 | 29年産 |
| きたほなみ | | 58, 230 | 53, 154 | 46, 078 | 53, 855 | 42, 872 | 45, 291 | 46, 543 | 51, 635 | 49, 751 |
| きたもえ | 36, 343 | 50, 553 | 46, 949 | (40, 705) | (47, 560) | (37, 881) | (40, 016) | (41, 130) | (45, 615) | |
| キタノカオリ | 46, 330 | 64, 445 | 62, 217 | 68, 003 | 88, 642 | 72, 891 | 57, 017 | 51, 323 | 48, 438 | 46, 675 |
| ゆめちから | | | | | 88, 642 | 79, 961 | 46, 587 | 42, 747 | 48, 197 | 46, 443 |
| つるきち | | | | | | | | (42, 747) | (48, 197) | (46, 443) |
| きたさちほ | | | | | | | | (41, 130) | | |
| ハルユタカ | 64, 113 | (88, 580) | (86, 790) | (93, 604) | (122, 013) | (93, 157) | (75, 000) | (75, 000) | (75, 000) | (75, 000) |
| 春 よ 恋 | 63, 686 | 88, 580 | 86, 790 | 93, 604 | 122, 013 | 93, 157 | 55, 884 | 50, 107 | 52, 815 | 50, 892 |
| はるきらり | | (88, 580) | (86, 790) | (93, 604) | (122, 013) | 88, 086 | 47, 424 | 42, 504 | 46, 377 | 44, 688 |
| りょうふう | 29, 215 | 40, 638 | 42, 670 | 36, 270 | 36, 270 | (37, 322) | (39, 039) | (40, 952) | (42, 754) | (45, 191) |

※１．（　　）内価格は非上場のため、入札結果を踏まえ、実需者との協議により設定された相対価格。



## 3．輸入麦の情勢について

### （1）輸入麦売渡制度

政府により買付・輸入された外国産麦を国内実需者へ売渡制度については、平成19年４月（平成21年10月改訂）より、過去の一定期間の国際穀物相場や為替の動向に連動して売渡価格が変動する「相場連動制」による売渡が実施されております。

【輸入麦の政府売渡制度】

| 価格改定回数 | 年２回（４月、10月） |
|---|---|
| 改定価格の算定方法 | 価格改定月の２ヵ月前から遡って６ヵ月間の政府買付価格を加重平均し、マークアップ・港湾諸経費を加算して算出 |

### （2）国際小麦相場の状況

世界全体の生産量は消費量を上回っており、期末在庫が潤沢であることや、原油安を背景とした海上運賃の低迷により、５銘柄平均政府買付価格は下落して推移していたものの、カナダ産小麦の不作や円安の影響により、10月買付以降の政府買付価格は上昇して推移しております。

○政府買付価格推移　　単位：円／トン（税抜）

| | 28.10月入札分（28.12月積） | 28.11月入札分（29.1月積） | 28.12月入札分（29.2月積） |
|---|---|---|---|
| ５銘柄加重平均価格 | 27,068 | 28,278 | 33,030 |
| ASW（オーストラリア産日本麺用） | 25,315 | 26,449 | － |
| １CW（カナダ産パン用） | 31,154 | 32,950 | 37,600 |

### （3）輸入麦政府売渡価格推移

政府売渡価格については、平成27年４月期から平成28年10月期まで下落して推移しておりました。しかし、平成29年４月期の政府売渡価格については、上述の通り、平成28年10～12月の政府買付価格が上昇していることから、今後の入札状況にもよりますが、現行価格からの大幅な変動は無いものと見込まれます。

○政府売渡価格推移　　単位：円／トン（税抜）

| 輸入麦政府売渡価格（5銘柄加重平均） | 平成26年10月期 | 平成27年４月期 | 平成27年10月期 | 平成28年４月期 | 平成28年10月期（現行価格） |
|---|---|---|---|---|---|
| | 54,009 | 55,620 | 52,444 | 48,713 | 44,880 |

## 4．安全・安心な麦への取り組み

### （1）目　　的

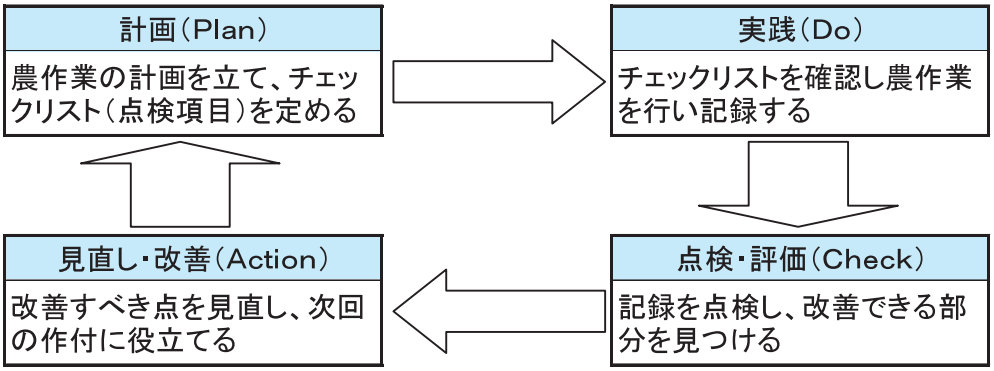
食品の安全と消費者の信頼を確保するため、麦類の生産工程管理、GAP（農業生産工程管理）的手法の更なる周知を徹底することが重要です。

**■農作業の生産工程管理（GAP的手法）■**

農作業ごとに、安全な農産物を生産するための管理ポイントを整理しまとめたものです。

農業生産の現場において、生産工程ごとに想定される危害とそれに対応したリスク管理措置をリストアップし、リストに従って確実に実施・記録したうえで、より適切な生産方法に見直していくことを繰り返すことがGAP的手法の取組みです。

**＜PDCAサイクル＞**




### （2）麦類における危害要因と対応策等

| 危害要因 | 対応及び防止対策など |
|---|---|
| かび毒 | DON検査の実施<br>⇒品位等検査前に分析し、暫定基準値以内となった小麦を民間流通麦として販売・流通<br>□かび毒汚染防止対策<br>・適切な防除の周知徹底<br>・赤かび病発生圃場の別収穫及び保管管理 |
| 残留農薬 | 農薬取締法を遵守した生産と食品衛生法に基づく出荷・流通<br>⇒通常検査（1JA1品種1点）及びポジティブリスト制対応のモニタリング検査の実施<br>□基準値以内への生産に向けて<br>・農薬の適正使用<br>・ドリフト対策（周辺圃場**＜特に水稲作付圃場＞への農薬飛散防止**）<br>・農薬使用後の散布器具洗浄の周知徹底 |
| 異種穀粒 | 特に、そばの混入防止対策<br>⇒アレルギーの原因となることから、混入防止対策の周知徹底<br>□混入防止対策<br>・機械（コンバイン、乾燥機など）清掃の周知徹底<br>・施設（サイロ、ベルトコンベヤーなど）清掃の周知徹底 |
| 異　物 | 異物（虫、鼠、石、ガラス・金属・プラスチック片など）の混入防止<br>**【特に、虫の混入発生事例が多くなっており、更なる混入防止対策の周知徹底】**<br>⇒食品安全上問題となることから、混入防止対策の周知徹底<br>□混入防止対策<br>・収穫・乾燥及び調製工程における選別作業の徹底<br>・保管時での現物確認による保管管理の周知徹底及び出荷時での現物確認の周知徹底<br>・保管容器、運搬車両、乾燥調製施設、選別機械及び作業者の衛生管理での周知徹底 |

### （3）ポジティブリスト制度施行

食品衛生法の改正により、ポジティブリスト制度が平成18年５月から施行され、全ての農薬などに残留基準が設定されております。このことにより、従来は残留基準がなかった農薬に対しても国際基準等を参考に基準値が設定されましたが、その残留基準が設定できない場合は、0.01ppm（１億分の１）という厳しい一律基準が適用されております。

**【農薬の飛散による影響】**

例えば、自分の圃場で使用している登録農薬が飛散して、その農薬が隣の圃場の違う作物に付着してしまい、またその農薬が隣の圃場の作物に登録がなく一律基準（0.01ppm）となっている場合、その作物から0.01ppmを超過した残留農薬成分が検出されると食品衛生法違反となり、違反をするとその作物は出荷停止・回収されることになります。

**【ちょっとした不注意が、莫大な費用発生と産地の信用を失墜させる事態に発展します】**

### （4）平成28年産　麦類の通常検査（１JA１品種１点）結果

北海道産麦取扱基本方針に基づき、ホクレン食品検査分析センターにおいて、残留農薬自主検査を実施し、麦類の安全性を確認するとともに、分析結果を活用し農薬の適正使用を推進しております。

**通常検査における適用外（登録外）農薬の検出事例**

【原　因】 ⇒農薬の飛散

Ⅰ．水稲いもち病を防除した際、隣接における収穫間際の麦圃場に飛散した。

Ⅱ．豆類・野菜等の菌核病を防除した際、隣接における収穫間際の麦圃場に飛散した。

【対　策】

水稲のいもち病薬剤に使用される成分の検出事例が、例年になく多く発生していることから、収穫前における麦（特に、春播小麦）圃場の周辺生産者（特に、水稲作付生産者）への注意喚起が必要であり、更なるドリフト防止対策が重要です。

水稲のいもち病薬剤に使用される成分は、麦類の残留農薬基準値が、一律基準（0.01ppm）であることから、特に注意が必要です。

また、豆類・野菜等に使用される成分も検出事例があることから、収穫前における麦（特に、春播小麦）圃場の周辺生産者への注意喚起が必要であり、更なるドリフト防止対策が重要です。

### （5）より一層の農薬飛散防止及び農薬適正使用に向けた取り組み

①　地域と一体となり対策を検討し、みんなで確認を行い、農薬飛散防止に係る意識を一層高めます。

Ⅰ．隣に他の生産者の圃場がある場合は、生産物の収穫日と農薬の散布予定日を確認します。

Ⅱ．収穫期の近い圃場は、『　旗　』などの目印を立てて、周りの生産者に周知させます。

Ⅲ．周りに収穫直前の作物がある場合は、農薬の散布日を変更します。

Ⅳ．防除対象圃場に隣接したハウスがある場合は、ハウスの側面を閉めてから防除します。

②　農薬使用上の注意事項

Ⅰ．ラベル表示を確認し、ラベルに記載された適用内容を確認します。

Ⅱ．散布できる作物を確認し、使用量、使用時期、使用総回数を守ります。

Ⅲ．農薬は、整理整頓して保管し、残農薬および空容器を適正に処理します。

③　ドリフト防止の注意事項

散布しようとする作物以外に農薬がかからないよう最善の努力をします。

**⇒風のない(朝夕の風のない)時を選んで散布**
農薬飛散の最大の要因は風です。

**⇒散布機の圧力は適切に**
圧力が高すぎると細かい粒子が発生し、飛散しやすくなります。

**⇒適切なノズルを選びましょう**
一般的なノズルは薬液の粒子が小さく、浮遊し飛散もしやすいので、ドリフト低減ノズルに切替えることも効果的です。

**⇒散布の位置と方向に注意**
農薬は対象とする作物だけにかかるよう、できるだけ作物の近くから散布します。

**⇒散布量は適切に**
散布量が多くなるほど飛散する場合も増えます。

**⇒散布機の洗浄を丁寧に**
前回使用した農薬が残っていると、登録外の農薬が収穫物に残留する危険性があります。

**【旗の設置におけるドリフト防止対策例】**

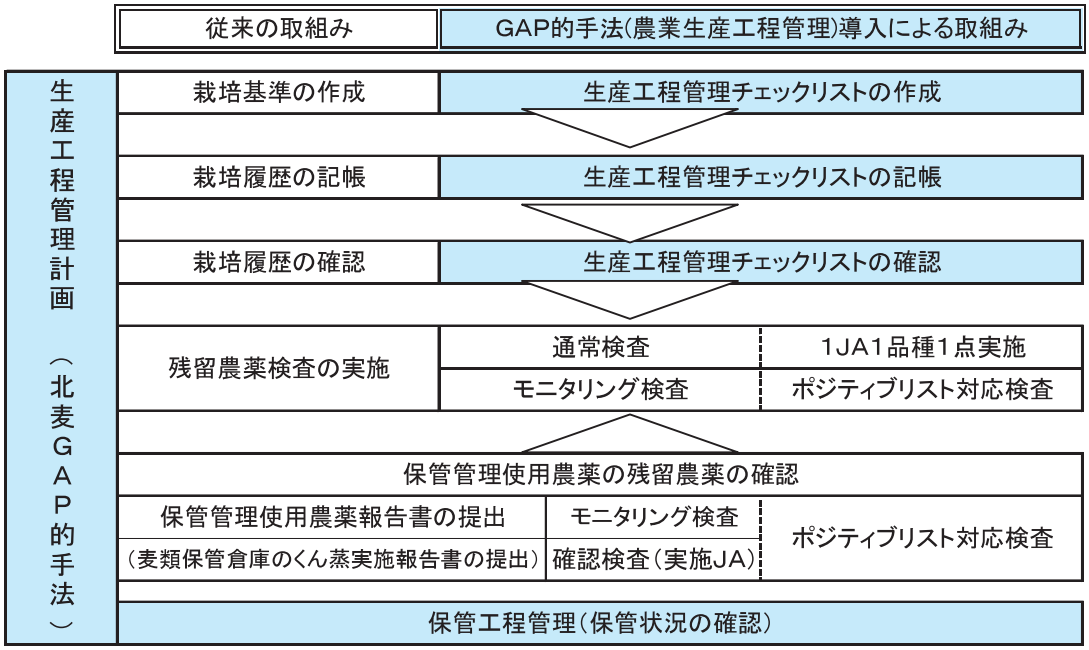
収穫前の麦畑周辺（特に、春播小麦）に『　旗　』等を設置し、周辺生産者（特に、水稲作付生産者）へ周知徹底させることにより、農薬散布の調整及び風向き等を把握し、農薬散布実施の判断に役立てる取り組みです。

収穫前　小麦圃場

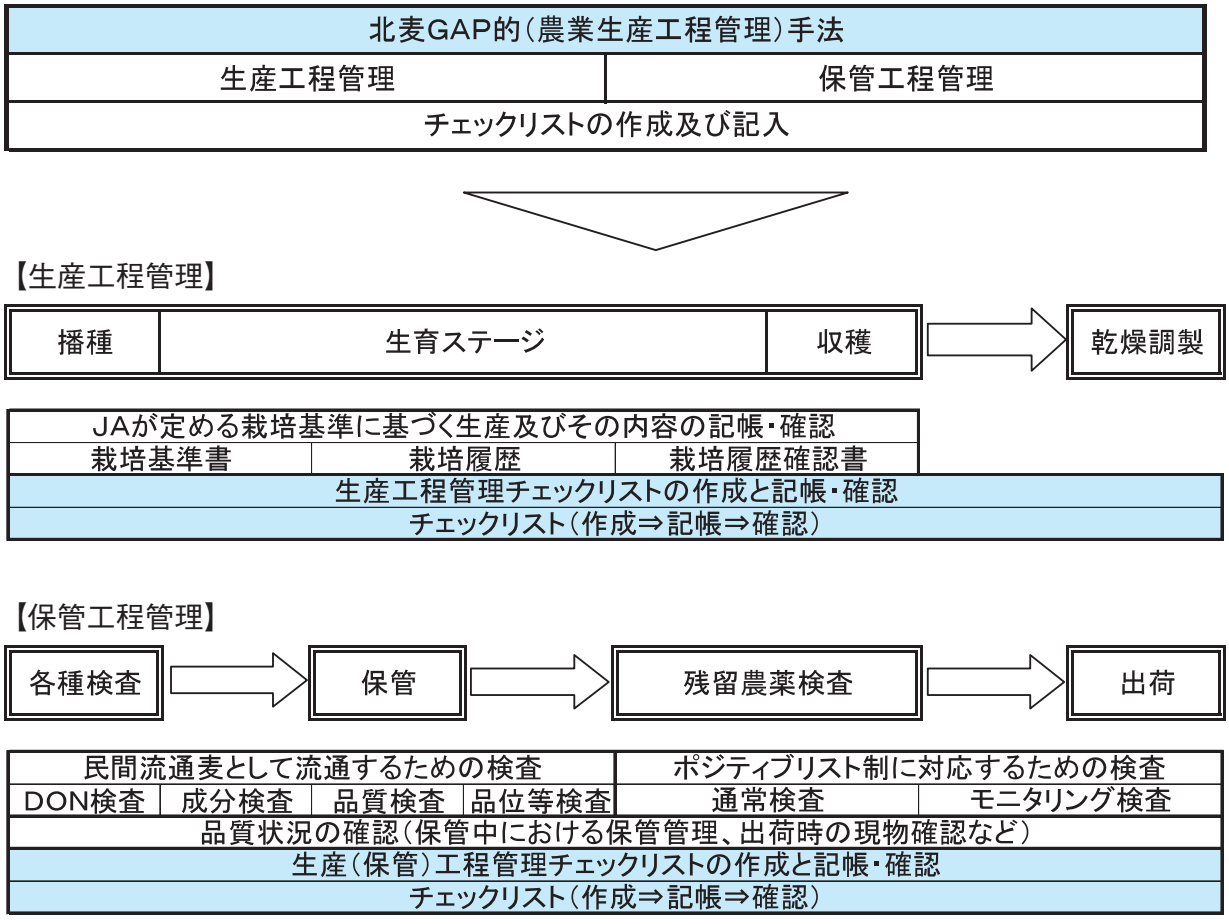
水　稲　圃　場

（6）生産工程管理におけるチェックリスト生産者・JA用は、別紙の参考資料に記載されております。

＜麦類の安全確保に向けた取組み＞




＜生産工程管理の取組みイメージ＞



# 【参　考　資　料】

## 1．ランク区分評価基準及び品質評価項目、基準値及び許容値一覧表

【ランク区分評価基準】

| ランク区分 | 評価基準 | | |
|---|---|---|---|
| | 基準値 | 許容値 | その他 |
| A | 3つ以上達成 | 全て達成（容積重を除く） | |
| B | 2つ達成 | 全て達成（容積重を除く） | |
| C | 1つ達成 | 全て達成（容積重を除く） | |
| | 2つ以上達成 | 未達成 | |
| D | 全て未達成 | | |
| | 1つ達成 | 未達成 | |
| | － | － | 雑銘柄麦、異なる銘柄の混合麦 |

**【品質評価項目、基準値及び許容値】：小麦及び大麦**

■日本めん用：きたほなみ、きたもえ

| 評価項目 | 基準値 | 許容値 |
|---|---|---|
| たんぱく | 9.7%以上11.3%以下 | 8.5%以上12.5%以下 |
| 灰分 | 1.60%以下 | 1.65%以下 |
| 容積重 | 840g／ℓ以上 | － |
| フォーリングナンバー | 300以上 | 200以上 |

※低アミロース品種（きたほなみ）の「たんぱく」の許容値は8.0%～13.0%

■パン・中華めん用：ゆめちから、キタノカオリ、春よ恋、ハルユタカ、はるきらり

| 評価項目 | 基準値 | 許容値 |
|---|---|---|
| たんぱく | 11.5%以上14.0%以下 | 10.0%以上15.5%以下 |
| 灰分 | 1.75%以下 | 1.80%以下 |
| 容積重 | 833g／ℓ以上 | － |
| フォーリングナンバー | 300以上 | 200以上 |

■大粒大麦：りょうふう

| 評価項目 | 基準値 | 許容値 |
|---|---|---|
| 容積重 | 709g／ℓ以上 | － |
| 細麦率 | 2.5㎜（篩）下に3.0%以下 | － |
| 白度 | 40以上<br>基準歩留：55%<br>農産物検査時から一ヶ月経過したサンプル | 37以上 |
| 正常粒率 | 80%以上（65%歩留時）<br>1.8㎜（篩）上（砕粒を除く） | 70%以上 |

## 2．生産工程管理チェックリスト（生産者用）【例】

平成○○年産麦　生産工程管理チェックリスト（生産者用）

農協名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿農業協同組合

生産者名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

| 生産工程 | | 取組内容 No. | 取組内容 内容 | 評価 実施 | 評価 未実施 | 評価 該当せず |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 基本事項 | | 1 | 当年のチェックリストを読み理解しましたか。 | □ | □ | |
| | | 2 | 農協等から配布された栽培暦・栽培基準等を読み理解しましたか。 | □ | □ | |
| | | 3 | 生産履歴の記帳を行い、保管していますか。 | □ | □ | |
| | | 4 | 作業日誌、肥料・農薬等の管理台帳を作成し、購入伝票とともに保管していますか。 | □ | □ | |
| | | 5 | 農薬等は適切な場所に保管し、期限切れ農薬や、不要となった農薬・廃液は適切に処分していますか。 | □ | □ | |
| | | 6 | 生産資材は、整理・整頓して保管し、適切に処分していますか。 | □ | □ | |
| | | 7 | 使用済プラスティック等の廃棄物は、適切に処分していますか。 | □ | □ | |
| | | 8 | 食品安全ＧＡＰや環境規範といった食の安全・安心に関する研修会に参加していますか。 | □ | □ | 研修会がない □ |
| 圃場準備 | | 9 | 良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか。 | □ | □ | |
| 防除 | | 10 | 農薬・除草剤は、農協等が定める栽培基準などに基づき薬剤を選定し、使用量・散布時期を守って使用しましたか。 | □ | □ | |
| | | 11 | 農薬を使用する際には、農薬ラベルの記載内容を確認しましたか。 | □ | □ | |
| | ドリフト対策 | 12 | 農薬飛散リスクを把握する観点から、周辺圃場からの農薬飛散に注意し、飛散の可能性がある場合は、ＪＡに情報提供をしましたか。 | □ | □ | |
| | ドリフト対策 | 13 | 農薬の散布時は、事前に散布器具に不具合がないか点検し、風速・風向を確認してから、適正な散布圧力・風量で行いましたか。 | □ | □ | |
| | ドリフト対策 | 14 | 飛散低減ノズルへの交換や、強風時には農薬散布を行わないなどの飛散防止対策を実施しましたか。 | □ | □ | |
| | ドリフト対策 | 15 | 作業終了後に使用した機器（ｽﾌﾟﾚｰﾔｰ・薬液ﾀﾝｸ）・計量器・防護具などの洗浄を行いましたか。 | □ | □ | |
| | | 16 | 赤かび病の適期防除に努めましたか。 | □ | □ | |
| | | 17 | 農薬使用の収穫前日数の確認を行い、適切に処置しましたか。 | □ | □ | |
| 播種作業 | | 18 | 種子は更新種子を用い、品種名を確認しましたか。 | □ | □ | |
| | | 19 | 種子消毒は、ＪＡが指導する薬剤を用い、使用回数・使用量等を守って行いましたか。 | □ | □ | |
| 栽培管理 | | 20 | 定期的に圃場を巡回し、作物の生育状況に応じた対応を取っていますか。 | □ | □ | |
| | | 21 | 肥料（基肥・追肥）は、ＪＡが指導する施肥基準及び施肥方法に基づいて適切に施用しましたか。 | □ | □ | |
| | | 22 | 施肥にあたっては、タンパク含有量がランク区分の基準値内になるよう、栽培基準等に基づき効率的に行いましたか。 | □ | □ | |
| 収穫作業 | | 23 | ＪＡの指導に基づいた適期収穫を行いましたか。 | □ | □ | |
| | | 24 | 倒伏や赤かび病による被害圃場の麦を分けて収穫しましたか。 | □ | □ | 被害なし □ |
| | | 25 | 異品種の混入がないように、品種ごとに機械の清掃を行いましたか。 | □ | □ | 1品種のみ □ |
| | | 26 | コンバインが小麦と他の穀類（特にそば）で共用の場合、切替えの際に清掃を行いましたか。 | □ | □ | 共用なし □ |
| | | 27 | 収穫後、麦わらの野焼きは行わず適正な処理を行いましたか。 | □ | □ | |
| 乾燥施設 | 共同施設 | 28 | 共同乾燥施設の搬入計画に従った収穫・搬入を行いましたか。 | □ | □ | |
| | 共同施設 | 29 | 倒伏や赤かび病による被害圃場の麦を仕分けして搬入しましたか。 | □ | □ | 被害なし □ |
| | 個人施設 | 30 | 作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか。 | □ | □ | |
| | 個人施設 | 31 | 異品種の混入を防止するため、作業開始時や品種の入れ換えに際して、施設の清掃を行いましたか。 | □ | □ | |
| | 個人施設 | 32 | 倒伏や赤かび病による被害圃場の麦を仕分けして搬入しましたか。 | □ | □ | 被害なし □ |
| | 個人施設 | 33 | 施設が小麦と他の穀類（特にそば）で共有の場合、切替えの際に清掃を行いましたか。 | □ | □ | 共用なし □ |
| | 個人施設 | 34 | 収穫後、速やかに規定水分まで乾燥させましたか。 | □ | □ | |

## 3．生産工程管理チェックリスト（JA用）【例】

平成○○年産麦　生産工程管理チェックリスト（JA用）

農協名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿農業協同組合

| 生産工程 | | 取　組　内　容 | | 評価・実施率 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | No. | 内　容 | 実施 | 未実施 | 実施率 |
| 基本事項 | | 1 | 食品安全GAP、北海道の病害虫防除基準、環境規範、前年度の記録をもとに栽培暦・栽培基準を見直し、生産者に配布・周知しましたか。 | □ | □ | |
| | | 2 | 栽培暦・栽培基準の周知状況。 | | | % |
| | | 3 | 生産履歴の記帳実施率。 | | | % |
| | | 4 | 作業日誌、肥料・農薬等の管理台帳の記録・保管の実施率。 | | | % |
| | | 5 | 農薬等の保管管理、期限切れ農薬や不要農薬・廃液の適切な処分の実施率。 | | | % |
| | | 6 | 生産資材の適切な処分の実施率。 | | | % |
| | | 7 | 使用済みプラスティック等の適切な処分の実施率。 | | | % |
| | | 8 | 食品安全GAPや環境規範といった食の安全・安心に関する研修会を開催しましたか。 | □ | □ | 生産者の参加率 % |
| | | 9 | 生産工程管理チェックリストの提出率。 | | | % |
| 防除 | | 10 | 気象状況、発生予察情報等に応じた病害虫防除の指導を行い、農薬の使用基準を確認して指導を行いましたか。 | □ | □ | |
| | | 11 | 農薬・除草剤の適切な使用状況。 | | | % |
| | ドリフト対策 | 12 | 飛散可能性のある農薬を特定し、周知を図りましたか。 | □ | □ | |
| | ドリフト対策 | 13 | 散布器具の点検や農薬散布時の風速・風向の確認等の実施率。 | | | % |
| | ドリフト対策 | 14 | 飛散低減ノズルへの交換や、強風時には農薬散布を行わないなどの飛散防止対策の実施率。 | | | % |
| | ドリフト対策 | 15 | 農薬散布に使用した機器・計量器・防護具などの洗浄実施率。 | | | % |
| | | 16 | 赤かび病の適期防除に努めるよう指導を行いましたか。 | □ | □ | |
| | | 17 | 赤かび病の適期防除実施率。 | | | % |
| | | 18 | 農薬使用の収穫前日数の確認と適切な処置実施率。 | | | % |
| 播種作業 | | 19 | 種子更新や品種確認などによる銘柄確保の実施率。 | | | % |
| | | 20 | 適切な種子消毒の実施率。 | | | % |
| 栽培管理 | | 21 | 生育時期や品種に応じた適切な施肥基準・施肥方法について指導を行いましたか。 | □ | □ | |
| | | 22 | 適切な肥料の施用実施率。 | | | % |
| 収穫作業 | | 23 | 圃場ごとの収穫適期調査に基づき、適期収穫の指導を行いましたか。 | □ | □ | |
| | | 24 | 適期収穫の実施率。 | | | % |
| | | 25 | 倒伏や赤かび病による被害圃場の麦の仕分け収穫実施率。 | | | % |
| | | 26 | 品種ごとの機械の清掃実施率。 | | | % |
| | | 27 | 小麦・その他穀類（特にそば）共用のコンバインがある場合、清掃の実施率。 | 共用なし □ | | % |
| | | 28 | 麦わらの適正な処理実施率。 | | | % |

## 4．生産工程管理チェックリスト（JA施設用）【例】

平成○○年産麦　生産工程管理チェックリスト（JA施設用）

農協名　　農業協同組合

| 生産工程 | 取組内容 | | 評価 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | No. | 内容 | 実施 | 未実施 | 該当せず |
| 基本事項 | 1 | 作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか。 | □ | □ | |
| | 2 | 作業機械・施設の整理整頓・清掃を適時実施していますか。 | □ | □ | |
| | 3 | 異品種の混入を防止するため、作業開始時や品種の入れ換えに際して、施設の清掃を行いましたか。 | □ | □ | |
| | 4 | 施設内に小動物や昆虫が侵入・発生しないよう対策を取っていますか。 | □ | □ | |
| | 5 | 施設が小麦とその他穀類（特にそば）で共用の場合、切替えの際に清掃を行いましたか。 | □ | □ | 共用なし □ |
| 集荷<br>原料貯蔵 | 6 | 乾燥調製施設の能力に応じた搬入計画を立て利用者に周知し、それに基づいた受入を行いましたか。 | □ | □ | |
| | 7 | 受入時に品種の確認を行いましたか。 | □ | □ | |
| | 8 | 受入前に生産履歴の内容について確認を行いましたか。 | □ | □ | |
| | 9 | 倒伏や赤かび病による被害圃場の麦は仕分けして受入を行いましたか。 | □ | □ | 被害なし □ |
| 乾燥・調製 | 10 | 受入後は速やかに規定水分まで乾燥させましたか。 | □ | □ | |
| | 11 | 乾燥調製作業の温度管理は適切に行いましたか。 | □ | □ | |
| | 12 | 乾燥調製に係る各作業日誌を作成し、保管していますか。 | □ | □ | |
| 検査 | 13 | 残留農薬検査を行いましたか。 | □ | □ | |
| | 14 | DON検査を行いましたか。 | □ | □ | |
| | 15 | 農産物検査を行いましたか。 | □ | □ | |
| 保管 | 16 | 保管中の品質状況の確認を行うよう作業者に徹底されていますか。 | □ | □ | |
| | 17 | 保管中の在庫品の水分を把握し、品質の保持に努め、記録を保管していますか。 | □ | □ | |
| | 18 | 保管中の在庫品について、穀温のチェックを行い、記録を保管していますか。 | □ | □ | |
| | 19 | ハードコンテナやフレコンにて保管を行っている在庫品については、外観のチェックを行い、記録を保管していますか。 | □ | □ | ｻｲﾛ保管のみ □ |
| | 20 | 保管中に定期的なローテーションを行うなど、品質の保持に努めていますか。 | □ | □ | ｻｲﾛなし □ |
| 出庫 | 21 | 出荷前に現物確認や、出荷施設の点検・確認を行い、記録を保管していますか。 | □ | □ | |
| | 22 | 出庫はオーダーに基づいて行い、出荷時にオーダーと現品の確認を徹底していますか。 | □ | □ | |
| | 23 | 出荷時に現物確認を行うよう作業者に徹底されていますか。 | □ | □ | |
| | 24 | 出荷後の追跡調査ができるよう、記録を整備していますか。 | □ | □ | |

## 5．小麦の生産状況と用途別需要状況

### （1）小麦の作付面積と生産量推移（全国及び北海道）

（単位　面積：千ha、生産量：千トン）

| 項目＼年産 | | H 1 | | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全国 | 面　積（千ha） | 284 | | 210 | 209 | 208 | 207 | 212 | 209 | 210 | 213 | 213 | 214 |
| | 生産量（千トン） | 985 | | 910 | 882 | 675 | 568 | 742 | 855 | 806 | 849 | 1004 | 778 |
| 北海道 | 面　積（千ha） | 130 | | 117 | 116 | 116 | 116 | 119 | 119 | 122 | 123 | 123 | 123 |
| | シェア（％） | 46 | | 56 | 56 | 56 | 56 | 56 | 57 | 58 | 58 | 58 | 57 |
| | 生産量（千トン） | 503 | | 582 | 542 | 399 | 345 | 497 | 582 | 528 | 550 | 731 | 514 |
| | シェア（％） | 51 | | 64 | 61 | 59 | 61 | 67 | 68 | 66 | 65 | 73 | 66 |

（資料：農林水産省　作物統計）

### （2）道産小麦品種別の作付面積推移

（単位：千ha）

| 品種＼年産 | H 1 | | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| きたほなみ | － | | － | － | 7 | 30 | 104 | 106 | 98 | 92 | 91 | 91 |
| ホクシン | － | | 104 | 104 | 97 | 74 | 1 | 0 | － | － | － | － |
| きたもえ | － | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| きたさちほ | － | | － | － | － | － | － | － | － | － | 1 | － |
| チホクコムギ | 79 | | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ホロシリコムギ | 38 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | － | － | － | － |
| タクネコムギ | 3 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | － | － | － | － | － |
| タイセツコムギ | 1 | | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| キタノカオリ | － | | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 |
| ゆめちから | － | | － | － | － | － | － | 1 | 7 | 13 | 12 | 11 |
| つるきち | － | | － | － | － | － | － | － | － | － | | 1 |
| ハルユタカ | 9 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 春よ恋 | － | | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 9 | 11 | 12 | 13 |
| はるきらり | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 |
| 合　計 | 130 | | 117 | 116 | 116 | 116 | 117 | 118 | 118 | 122 | 121 | 120 |

※ラウンドの関係により合計が一致しない場合があります。　（資料：ホクレン調べ）

【奨励品種決定年次】

| 年　次 | 品　種　名 | 年　次 | 品　種　名 |
|---|---|---|---|
| 昭和49年 | ホロシリコムギ、タクネコムギ | 平成12年 | きたもえ、春よ恋 |
| 昭和56年 | チホクコムギ | 平成15年 | キタノカオリ |
| 昭和60年 | ハルユタカ | 平成18年 | きたほなみ |
| 平成２年 | タイセツコムギ | 平成19年 | はるきらり |
| 平成６年 | ホクシン | 平成21年 | ゆめちから |
| | | 平成24年 | つるきち |

## 6．輸入小麦の実績

### （1）国別輸入量

単位：千トン

| | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| アメリカ | 2,891 | 3,257 | 3,046 | 2,242 | 2,877 |
| カナダ | 970 | 1,322 | 1,208 | 1,441 | 1,484 |
| オーストラリア | 1,095 | 1,033 | 971 | 844 | 877 |
| その他 | 2 | 4 | 4 | 6 | 7 |
| 計 | 4,958 | 5,616 | 5,229 | 4,532 | 5,245 |

（資料：農林水産省）

### （2）年度・銘柄別実績

単位：千トン

| 銘柄 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| DNS（ダークノーザンスプリング）<br>アメリカ産パン、中華めん用 | 1,391 | 1,507 | 1,246 | 877 | 1,245 |
| HRW（ハードレッドウインター）<br>アメリカ産パン、中華めん用 | 744 | 880 | 980 | 727 | 855 |
| CW（ウェスタンレッドスプリング）<br>カナダ産パン用 | 779 | 1049 | 1,037 | 1,228 | 1,258 |
| ASW（オーストラリアスタンダートホワイト）<br>オーストラリア産日本めん用 | 966 | 911 | 870 | 759 | 794 |
| WW（ウェスタンホワイト）<br>アメリカ産菓子用 | 755 | 867 | 820 | 610 | 775 |
| 一般輸入計 | 4,635 | 5,214 | 4,953 | 4,201 | 4,927 |
| PH（プライムハード）<br>オーストラリア産中華めん用 | 128 | 122 | 101 | 83 | 83 |
| DRM（デュラム）<br>カナダ産パスタ用 | 190 | 272 | 170 | 210 | 222 |
| SBS輸入計 | 318 | 398 | 271 | 293 | 305 |
| 計 | 4,953 | 5,612 | 5,224 | 4,494 | 5,232 |

（資料：農林水産省）